



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

2019年1月4日
第5号

Happy new year! ブータンで新年を迎えました。昨年2月に JICA ボランティアの選考に合格してから、JICA 駒ヶ根で派遣前訓練を受け、10月に当地へ赴任しましたが、その間たくさんの方々で大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。今年はボランティア活動に本腰を入れ、ブータン観光業の発展に寄与できるよう尽力したいと思います。



写真：ルンチュチェ・ラカン（高度 3,569m）から望むブータン・ヒマラヤ 2018.12.30

今号では、ティンプーで行われた日本の正月行事と主催した日本語学校についてお伝えします。

ブータンの正月（Losar）

仏暦に従うブータンでは、西暦の1月1日は普通に勤務日です。今年は2月5日が仏暦の正月（Losar）にあたり、2日間正月休みがあります。正月は家族と過ごしたり、お寺を参ったりするようです。地方の実家に帰省するために正月休みの前後に休暇をとる人も多く、この期間は職場に行っても同僚がいなくて仕事にならないこともしばしばあるそうです。

一方で、若者世代を中心に西洋化近代化の流れがどんどん押し寄せており、西暦の年越しイベントに参加して盛り上がった人もたくさんいたようです。ホテルやレストランの New year dinner で美味しいものを食べたり、カウントダウンパーティで踊ったりします。年末の Duty Free shop のレジは長蛇の列。輸入酒類を扱う酒屋のワインは売り切れていました。

ブータン日本語学校 (BCJS)

[The Bhutan Centre for Japanese Studies](#) (ブータン日本語学校、以下「BCJS」)は2011年に開校した、ブータン初の日本語学校です。元々現地で旅行代理店を営んでいた日本人が、日本語ガイドの育成を目的に設立しました。ブータンの公教育機関や大学には日本語のコースはないので、日本語を学ぶためにはBCJSのような民間の専門学校に通う必要があります。ブータン国内には日本語を学べる機関が他に2校あるそうですが、BCJSが最古参最大手です。

BCJSでは、校長を含め5人の日本人が日本語を教えています。現在は、日本の技能実習制度の申請に必要な日本語検定合格を目指すコースと、日本への留学を想定したコースが開講されています。受講料は、前者が6カ月間でNu.6,500(約¥10,000)、後者が4カ月間でNu.5,000(約¥8,000)。両コース合わせて現在50-60人の学生が在籍中です。

ブータンの公教育は基本無料、大学でも給付の奨学金を得られることが多く、教育費にお金はかかりませんが、BCJSのような民間の専門学校には、そういった制度が適用されません。学校運営にかかる国からの補助金はなく、学費の補助も今はない(2017年10月留学生まで補助があった)みたいで、ブータン人の学生にとって決して安い出費ではありません。それでもClass12(日本の高卒に相当)を修了して仕事に就けなかった世代が、自分の将来のために投資しているのではないかと思います。なお、ブータンでは若者の高い失業率(13%)が社会問題となっていますが、職業人材を育成し、結果的に就業率の向上に貢献するBCJSの活動を、私もできる限り支援していきたいと思います。

なお、BCJSは日本語を教えてくれるボランティアを歓迎しています。日本語教育に携わっている方、日本語ボランティアを絡めてブータン旅行にいらしてみてもはいかがでしょうか。



2019 年お正月イベント

1月1日は休暇をもらって、BCJSが主催する日本の正月イベントを手伝いました。かるた、福笑い、書き初め、人間スゴロク、羽根つき、けん玉といった伝統的な日本の遊びで、参加した学生たちは大盛り上がり。人間スゴロクでは「王様に会いました。3つ進む」や「プジャ。1回休む」など、ブータンらしい出来事・習慣が盛り込まれていて大変面白かったです。このようにBCJSは日本語だけでなく日本の文化も教えています。2月の節分には豆まきと恵方巻き作りをします。これもまた楽しいイベントになりそうです。

